

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000773		
法人名	社会福祉法人尚紫会		
事業所名	グループホーム群れ咲き		
所在地	姫路市西郷町東阿保1201-1		
自己評価作成日	令和2年2月25日	評価結果市町村受理日	令和2年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&igyosyoCd=2894000773-00&ServiceCd=320&Type=search](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&igyosyoCd=2894000773-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市総合福祉会館内		
訪問調査日	令和2年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日を安心して生活してもらうために、表面には出されない心の思いに耳を傾け、思いが出せるよう個々の支援に努めている。安心楽しい生活を送る為に健康には留意し、日々の体操を継続した。医療面においても休日、緊急時など提携病院の対応が可能で相談にも対応して頂けるため安心につながっている。家族様友人の来訪に時間の制限はなく、いつでも来られており、お話が伺える機会も多い。地域の行事には参加させていただき、地域の方のご協力を頂き楽しませてらっている。また、地域の方に来ていただけるイベントも定期的に企画している。近隣に法人内の施設があり、行事に参加したり、相談したり、会議研修にも参加している

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福法人を母体とする開設2年7か月の事業所である。事業所独自の理念を策定したり、介護計画の見直しや評価、具体的なサービス内容の分かりやすい書式を考案するなど、前向きに取り組まれている。午後入浴を取り入れ入浴回数を増やすなど、利用者にとって良い支援とは何かを試行錯誤しながら熱意をもって支援されている。法人の理念に掲げる地域貢献を担い、さらに地域密着型サービスの役割を果たすべく、地域とのかかわりを深める取り組みを職員全体で楽しみながら取り組まれている。地域住民の協力と理解を得ながら利用者の意向に寄り添い、日々の支援に努められている。1階の広々とした和の空間や2階の地域交流室を活用し、利用者地域貢献のために更なる取り組みに期待が持てる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は新人入職時に確認し、掲示しているが、当事業所独自の理念は出来ていなかった。スタッフ会議においてスタッフの思いを聞き、言葉の抽出を行い、想いのこもった理念を出してもらった。それを元に暫定の構築を行い、スタッフ会議で提示。それを検討し当事業所の理念として作り上げた。今後、振り返る指針として、地域の方、家族、スタッフと共有している。	一年をかけて、職員から案を出してもらい、スタッフ会議で話し合い、令和2年2月に「利用者が安心して笑顔のある生活が過ごせる利用者の安定した生活の場を守る」という事業所の理念を決定した。その中で基本方針・支援方針も掲げており、地域とのつながりを大切にし、地域の中で生活が送れるように支援するという、地域密着型事業所としての役割も踏まえている。玄関と各フロア、スタッフルームにも掲示し、今後より一層職員家族へも共有していけるようにしていくと聞き取る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で自治会に入会しており、広報、地域のニュースが配布されている。参加可能な行事には地域の方と連絡を取り合いながら、参加させていただいている。今年度は、世代間交流への参加で利用者のやさしさ、笑顔があり地域の方へのお手伝いに感謝である。2階の地域交流室は今年度はあまり進まなかった。来年度に向け、地域の方、利用者が一緒に定期的に楽しめる事を検討している。	運営推進会議に毎回自治会長の参加があり、地域の行事などの把握や話が出来関係性を構築している。地域の交流として地域の交流館で行う世代間交流に参加させていただき、保育所や幼稚園の園児と交流を楽しみ、自治会主催のふれあいカフェに数名の利用者が参加している。地域のゴミ当番にも参加している。今後は、地域清掃へ参加したい旨を自治会費納入時に自治会役員に伝えたり、一度開催を行った地域交流室を利用した健康教室、ダンス会を今後も開催していく意向をうかがった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2回の研修室は、独居の高齢者の方々が集まる、地域のサークルには活用して頂いている。が、地域の方に事業所に来ていただけるよう、研修、体操等検討はしていたが、実際には進んでいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進介護では、事故も含め、活動状況の報告を行っている。身体拘束虐待防止委員会もさせて頂き、DVDを見て頂いたり、身に研修につなげたりしている。家族様からの感想、意見に考えさせられる事も多い。	運営推進会議は2か月に1回開催をしており、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、知見者、家族が参加している。利用者全員の家族に出欠の案内を送り、毎回4名程度の参加がある。行事、研修、委員会、事故等の発生状況の報告や意見交換が行われている。事故・ヒヤリクレーム発生状況は、種別や場所、状況、要因など詳しく分析したもので報告を行っている。運営推進会議の中で身体拘束虐待防止委員会の役割もかねて取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとは定期的に連絡を取っており、地域の状況や制度についての情報を頂いている。運営推進会議にも参加を頂いており、事業所の実情や不明な点については相談させていただき、また、事業所の催しにも参加頂き、協力関係を築いている。	地域包括支援センターと日常的に連携を取り、運営推進会議にも参加していただいている。月に1回、地域包括主催の「わくわく四郷倶楽部」で地域で生活している方の支援を検討する会議に市の担当者が出席されており情報交換が行われている。市の担当窓口へ生活保護の方の受け入れに関して希望があり、相談を行ったことがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期の身体拘束虐待防止委員会の報告、研修の伝達講習は行っているが、毎日の申し送り時に不適切なこと、グレーなことについて話している。スタッフから質問がでることもあり、スタッフ会議においても話している。ベランダの施錠は時間により開放しており、洗濯ものを干したり、花を摘んだり、野菜の収穫をしたりしている。玄関は事務所が、見守りを出る際は解錠しているが、出ようとされる方はいない。	身体拘束・虐待防止に関する事業所の指針を定め、見直しを行っている。本部の身体拘束防止委員会に代表者が出席し内容をスタッフ会議で伝達・回覧している。運営推進会議時に委員会を開催し参加者より、それぞれの立場で客観的な意見を頂いている。事業所の玄関は交通量の多い道路に面しており、日頃は施錠を行っているが、玄関横の事務所に管理者がおられる時には、施錠しない時間もあるとうかがった。今後は玄関の施錠に関して職員間で話し合い、開錠に向けた取り組みを検討してほしい。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期の身体拘束虐待防止委員会の報告、研修の伝達講習は行っているが、毎日の申し送り時に不適切なこと、グレーなことについて話している。特に言葉かけには留意し、都度話し合うようにしている。	虐待防止として身体拘束虐待防止研修を行い、職員は学ぶ機会を持っている。運営推進会議の中で身体拘束虐待防止のDVDを見て学習をしたり、アンガーマネジメントについて学ぶ機会を持っている。日頃から夜勤明けの職員には管理者が声かけをし、利用者への声かけの仕方が気になる時はその場で対応を交代し、後で指導を行っている。年に2回の面談やストレスチェックも行っている。虐待防止マニュアルは確認できなかった。	虐待防止について正しい理解や虐待行為を発見した場合の対応方法の周知徹底を図るため、マニュアル策定と高齢者虐待防止法に関する理解浸透を図るためのより一層の取り組みを期待したい。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は研修は実施していないが、後見制度を利用されている利用者様が利用されるようになったため、入居の際、スタッフに話をおこなったが、今年度は研修は行わなかった。学ぶ機会を重ねて検討している。	現在、成年後見人制度を利用されている方がおられ、その方の入居の際に職員に制度について話をされている。今年度は研修が行っていないため、来年度は研修を行うように検討していると聞き取る。制度のパンフレット設置や運営推進委員会で勉強会を行うなどの取り組みを検討してほしい。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学時に事業所の方針、利用料について説明し、契約前から利用者様、家族様の不安、疑問点を聞き取り、相談に対応している。契約時には重要事項説明書を解説し、同意を得るようにしている。また、改定の際は、書面をもって説明し、同意を頂いている。	見学時にパンフレットを用いてサービス内容や料金について説明し、申し込み時には、質問等にも詳しく答えている。契約時には重度化した場合、入院になった場合など、家族の不安や心配事など、丁寧に説明されている。敬老会時に行う家族会では、重度化した場合の指針や緊急時の対応の説明をされ、延命に関する希望の確認をしている。今後は重度化した場合の指針や緊急情報カードの説明も、契約時に行う意向をうかがえた。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議また、敬老会での家族会で意見要望を伺う機会を設けている。個々の面会時は、必ず話が出来る様に努め、介護保険更新時の担当者会議、また、個々のケース会議には家族様にご出席いただき、思いを伺い、よりよい生活が出来る様に努めている。	日々の面会時や運営推進会議の時にご家族から意見を聞いている。敬老会時の家族会には10名の家族が参加され、行事報告やスライドショー、今後についてインフルエンザ・健康診断、消防シート、看取りについて、介護報酬改定について説明を行っている。家族からも意見を聞き、職員の交替について連絡が欲しいとの要望があり、お便りでも報告を行っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフ会議、ユニット会議を設けている。必要時はレク会議、食事会議を実施し、職員の意見を聞くよう努めている。また、事務所は開放しており、職員の要望、意見には随時耳を傾け、可能な限り対応している。	毎月スタッフ会議・ユニット会議を行い、スタッフ会議の中で職員が自由に意見を言う場がある。参加できない職員にも意見があれば出すように伝えており、内容は回覧で申し送りをしている。職員の意見で脱衣室に手すりの設置をしたり、利用者トイレでは、立ち上がり時の手すりの検討予定である。食事に関しても職員からの意見を活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回の人事考課と、2階の面談が計画されている。自己評価表に基づき、希望、思いを聞き、対応している。今回、午後入浴の導入を実施したが、職員の負担の軽減、動きのスムーズさを総合的に検討し実施に至ったが、楽になったとの感想である。職員が楽しく、やりがいを持って働けるよう常に検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修、資格取得の機会について勤務内で参加できるよう配慮している。また、その力量を把握し、統括できる作業は任せられるよう指導し、達成感につなげている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の委員会、研修に参加する機会があり、等事業所以外の同業者と交流できる機会は出来るようになってきている。認知症研修においては地域包括支援センターにご協力を頂けている。また、当事業所の祭りにおいては同業者様に来ていただき、ご協力をいただいている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様からの情報を頂き、本人様の思い訴えを傾聴し、職員間で共有している。本人様の思いが二転三転する場合もあり、本人様が不安にならないよう、職員の連携を密にし、同じ立ち位置で対応できるように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思いは丁寧にお聞きしている。家族様の中でも、それぞれに思いがあり、ゆっくり、何度もお話ししながら、関係作りに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いをお聞きし、当事業所が出来る事出来ない事は丁寧に提示している。何度も相談に対応し、要な場合は、他の社会資源の情報などを伝え、それらにつなぐようにしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はしてもらう様に対応している。利用者によりできる事出来ない事はあるが、出来なくても出来ると思われる事もあり、言葉にできない思いを汲み取り、出来る部分だけをお願いするようにしている。また、毎日お願いすることで、自分の仕事と思われる方もあり、「お願いします、有難う、助かりました」と声掛けを行い、一緒に行っている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居させてからも、家族様はよく来ていただき、担当者会議、ケース会議にも参加して頂き一緒に検討して頂いている。また、当事業所の祭りにはお手伝いいただき、一緒に過ごさせてもらっている。月一回、お化粧カフェを実施しているが、それについての勉強して一緒にさせてもらいたいと伺っている。		
20	(11)○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係性を把握し、職員で情報を共有し、可能な限り訪問する機会や、来訪の案内を行っている。友人の方もよく来られており、一緒に出かけられる事もある。兄弟、孫様、ひ孫様も来られ、楽しく時間を過ごされている。了解を頂いて写真を撮り、楽しみにされている方もおられる。	昔からの馴染みの喫茶店に職員と行ったり、友人の来訪や友人との外出に送迎したりしている。本人の意向があれば家族にご協力をいただき、一緒に結婚式や墓参りにも出かけていただけるように、馴染みの人との関係継続に向けた支援に努めている。	

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方の見極め等を職員で共有している。関係性が悪くなりそうであれば、職員が間に入るようにしている。利用者は雰囲気や敏感に認識される為、孤立させないよう思いに配慮し対応している。また、「お願いね」と利用者同士がかかわりあえるように努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特養へ移られた方もおられるが、研修や委員会などで職員が訪問した際には声をかけてお話することも多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23 (12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常でのかかわりを大切にしている。思いが何度も変わり不安を訴える方もいるが何度も伺い、思いを大切にしている。耳の不自由な方には、読唇、ジェスチャー、簡単な手話などで思いを伺っている。何も言われない方もいるが、毎日の何気ない会話の中から思いをくみ取るようにしている。	開設半年後に独自で作られたアセスメントシートを使用し、6か月ごとに見直しを行い、一人ひとりの意向把握に努めている。意向把握の困難な方もあるので、利用者の言葉や会話、表情を引継ぎノートやケア記録に記入したりフロア会議で情報共有を行っている。アセスメントでの利用者の意向の明確化の方法も検討してほしい。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係機関からの情報から、生活歴、生活環境を把握し、職員で情報を共有しているが、毎日の話の中で思いがけない話をされたり、昔話を聞かされたりすることが多い。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のかかわりの中で、職員は客観的観察を心掛けている。気づいたことはケース記録に残し、申し送り時に共有している。家族様訪問時には都度、報告している。入所してからの時間の経過とともに心身状態に変化もあり、支援方法も違ってきている事もあるが、職員は情報を共有し、同じ立ち位置で対応できるよう努めている。		
26 (13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については6か月に一度見直しを行っている。担当者会議には家族様の同席をお願いし希望、思いをお伺いし、計画書の作成を行っている。また、、出来る限り、利用者担当スタッフも参加出来るように進めている。モニタリングは月一回ユニット会議を開催し、職員間で話し合い進めている。	介護計画は6か月ごとに見直しを行っている。サービス担当者会議には家族に参加を依頼している。以前は利用者にも出席いただいた事もあったが、現在は参加には至っていない。サービス担当者会議時に利用者を担当する職員が出動していれば参加している。ケアプランは回覧し職員は把握している。ユニット会議時にモニタリングを行い職員でよりよい支援について検討している。今後職員のレベルアップに取り組んでいくかがえた。	モニタリングをユニットの職員会議で行い、それを反映した利用者視点に立った介護計画の作成やそれを基に統一した支援が行えるようサービス内容の記録などの工夫に期待したい。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや様子はユニット毎の申し送りノートに記入し、ケース記録に集約している。朝の朝礼時、ユニット毎の申し送り時に職員が情報を共有できるように努めている。日々に様子において気になる事があればケース会議を持ち、話し合い、利用者が不安なく生活が送れる様に努めている。また、回覧簿をつくり、すべての職員の情報共有を図っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の変化、周りの環境の変化にはすぐに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	顔見知りの関係の構築の為、また地域での生活を実感して頂けるよう、情報の収取に努め、可能な限り地域の行事に参加できるように努めている。また、近隣のお店や郵便局へ出かけられるよう支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族様の希望で嘱託医の受診を受けられる方は往診前にかかりつけ医の心身状況を医者に伝えている。他のかかりつけ医を利用されている方は、受診時に家族様より様子を伝えるようお願いし、不明な点があれば、病院へ連絡し相談させていただく事もある。定期受診は原則家族様が行うが、必要時は職員が対応している。緊急時は職員が対応し家族様と連携をとっている。	入所前からのかかりつけ医を継続しておられる方は2割で、他の方は嘱託医を利用し、1か月に一度内科の往診をうけている。訪問歯科は必要に応じて利用されている。眼科や整形外科などの受診には事業所で通院支援が行われ、家族と受診される場合には、状態を報告し医師に伝えて頂いている。必要に応じて通院先の病院と情報交換し、連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しているが、介護職は気づいたこと、気になる事は報告相談している。入浴前後には看護師に声をかけ、利用者の心身状況を共有している。不安なことは話し合い、利用者が適切な受診、看護を受けられるよう支援している。看護師は24時間、オンコール体制をとっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人情報に留意しながら、ケース記録やサマリーなどを共有しながら、情報交換、相談に努めている。退院前カンファレンスには、家族の同意のもと、管理者、計画作成担当者、看護師が同席し病院、家族の意向を確認しながら、出来る出来ない事を共有し、退院後に対しての相談も行い、安心して退院できるように努めている。	週に2日、看護師が勤務しており、緊急時はオンコール対応しており、主治医と連携を取っている。入院の際は、状態を詳しく記録し情報提供を行っている。入院後は様子の確認に向いたり、カンファレンスに参加し早期退院に向けて情報交換に努めている。退院にあたっては、地域連携室とやり取りを行い、医師を交えて、利用者・家族、看護師同席し退院の日を決めるなど医療関係者と密な連携が図られている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針を示しながら、入居前、入居時説明をさせて頂いている。敬老会において家族会を行い、重度化、見取りへの指針の説明をさせて頂き、避けては通れないもの、日常生活の延長上にある事を話し合い、書面にて提示させていただいている。家族様からの相談もあり、安心につながるよう支援している。	昨年は敬老会時に家族会を行い、重度化した場合の指針の説明や看取りの研修を行い、救急情報シートをご家族に記入して頂いている。今後は、契約時に説明を行っていく予定であるとうかがった。救急情報シートは消防署からの様式を使用されているが、緊急時に対応できるような詳細部分の希望確認なども検討してほしい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網と合わせて、事故急変時の初期対応マニュアルを提示している。夜間帯についても、看護師、管理者が指示できる体制をとっている。急変時、初期対応についての研修も行っている。		

自己	第3者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練2回実施。初めての水害訓練1回実施。水害訓練においては近くの法人内への避難を行い、状況を把握していった。消防訓練においては夜間想定をし、駆け付けられるスタッフを把握、連絡網を整備した。訓練後は会議を行い、必要なこと、必要なものを話し合い準備を進めている。次回訓練は、少ないスタッフでどう動けるかを検討している。災害については、地域と協力し、実際にどう動くかを話し合っている。	9月に夜間想定火災の避難訓練、11月には水害の避難訓練を行い本部まで実際に移動した。予想より時間がかかり、早めの避難の必要性を実証できたどうか。備蓄はまだ十分に準備できていないが今後、準備をしていく予定である。地域との協力体制を深める話し合いを行い、災害に備える意向がうかがえた。地震想定避難方法や、訓練についても話し合っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室は本人様の住まいであり、部屋番号でなく〇〇番地と位置付けている。申し送りにおいても名前を出さないよう心掛けている。居室に入る際はすべてにおいて許可を頂いている。訴えや思いが時間により、変化もあるが、すべてに於いて共感し、対応を工夫できるよう職員で情報を共有している。	毎朝の合同の申し送り時や、ユニットごとの申し送り時に一人ひとりを尊重する声かけについて話し合っている。法人での接遇研修や接遇委員会に代表者が参加し事業所の課題を抽出し、毎月の接遇目標をきめている。申し送り時には個人の名前を出さないと、利用者一人ひとりにあいさつをきちんと行うなど徹底し、人格を尊重する言葉かけに取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定するのはすべて本人であり、職員でない事を共有している。自己決定につながるようなこえかけや、選択肢を増やすなど工夫し、訴えの出来にくい方も安心してできるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の性格や好きなことを日々の暮らし、会話の中からつかみ取り、職員で共有し、本人のペースを大切にしている。日々の流れの中で、心身状況の変化もあるが、都度、確認し、思いに添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には利用者と一緒に衣類を準備している。衣類を買いに一緒に出かける事もあり、店で試着をし、あれこれと楽しめる事もある。お化粧をされる方もあり、化粧品がなくなればスタッフと買いに出かける事もある。月に一回、行動療法としてのお化粧カフェがあり、コーヒーを頂きながら、お化粧、手のマッサージを楽しんでいる。時間的に全員には不可能であったが、スタッフ二人がセラピストの講習を受け、お手伝いできるようになった。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは楽しみとなるよう作成している。お好み焼、焼きそば、稲荷ずしなど利用者が参加できるよう計画している。季節、行事の料理を大切にしてお祝い膳、雑煮、松花堂弁当、七草がゆなど楽しみとなるよう努めている。調理、配膳、後片付けなど出来る方にはスタッフと一緒にしていただいている。	夕食はケータリングを利用し、盛り付けや後片付けを利用者と一緒に行っている。昼食は週3日は材料を配達してもらい、後の4日は利用者の好きなものを献立から買い物、準備、調理まで一緒にされている。月に1回食事会議を行い利用者の意向を交えて検討されている。松花堂弁当をとったり、バーベキュー、祭りなどのイベント食、外食などの機会を多く持ち、職員や家族と楽しみながら食事ができるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分の摂取量は記録し、確認している。月一回は体重測定を行っている。全身状態、排泄の状態も確認し、栄養摂取に配慮している。咀嚼の状態に注意し、お粥への変更、鉄の使用等、利用者個々に合わせた支援をしている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には歯磨き、うがいをさせていただき、チェックを行っている。本人の訴え、また、必要者には家族様の了解の上、歯科往診を依頼し、治療、月一回の口腔ケアを受けている。医師の指示の元歯間ブラシ、ハミングッドへの対応も行っている。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。夜間、排泄表を記録し、その方の排泄パターンに合わせ声掛けを行っている。夜間オムツの方も、日中はトイレでの排泄が適っている。以前に比べ拒否が強くなり、汚染が増えた方には、ケース会議を行い、声掛けの工夫、時間の再検討を行い、汚染の軽減につながっている。	オムツを使用されている利用者は、夜間帯に1名のみで日中はトイレでの排泄に努めている。ケース会議において排泄の支援に拒否のある方について話し合い、声掛けの工夫や運動を取り入れるなどしながら、失敗を減らし排泄のダメージを取り除いた事例をうかがえた。また縦の手すりを付けて、安全な排泄の自立に取り組む意向がうかがえた。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを配膳している。野菜の摂取には注意し、食べにくい方には提供の形態を検討している。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室は個室バスを設置。週2回午前入浴から、週3回の午後3時からの入浴が適うようになった。午後入浴になったことで、化粧されている方は化粧が落とせると喜ばれ、.. パジャマに着替えられる方がおられる。また、導線を工夫することで入浴人数が増えたにもかかわらず、ゆっくりと入浴が適い、丁寧なドライヤーが出来るようになった。スタッフからも楽になったと声が聞いている。	以前は午前入浴で週2回であったが、利用者の意向を踏まえ、職員間で話し合い、週3回の午後3時からの入浴に切り替えられている。化粧が落とせるようになったとか、パジャマに着替えができるようになったとの声が聞かれ、以前の生活習慣に沿えるように工夫されている、一人づつプライバシーに配慮しながら行われ、ゆず湯などを行い、季節を楽しめる入浴支援がなされている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせた入眠時間を心掛けている。日中は、体調に合わせて、昼寝や休息ができるよう心掛けている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医からの指示の元、看護師が管理している。変更も含めた個々の服薬状況は、随時に、スタッフに申し送られ情報を共有している。変更があれば都度看護師より、家族に伝えている。飲みにくい薬、拒否のある薬は、スタッフで話し合い、薬剤師に相談、かかりつけ医から指示を頂き支援を行っている。症状の変化には記録を残し、看護師を通じかかりつけ医に報告している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の食事の支度等、好きな方にはしてもらっている。食事作りはされないが、配膳は自分の仕事ととらえ、自発的に動かれている。来客時には、玄関に職員と出迎えに出たりしている。		



自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地区の行事に参加、他事業所の行事に参加、また、その方が生活されていた地域の散策、良くいかれていた喫茶店、勤められていた地域と会話の中で見られた思いに留意し、機会を設けられるように支援している。友人のお誘いには家族、友人に確認しながら、送迎を行っている。事業所の買い物にも声をかけ、一緒に出かける事も多い。訴えの無い方については誕生日等、機会を作り出かけられるよう支援している	とんど祭りや秋祭り、ふれあいカフェなどの地域行事に参加したり、誕生日などの外食や、買い物外出、近くの郵便局などへ出かけている。天気の良い日には散歩や喫茶店に出かけるなど、一人ひとりの希望に沿って外出支援を行っている。また畑で収穫を楽しんだり、花の水やりや、ウッドデッキで日光浴など、戸外で過ごす機会を作り、楽しんでもらえるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は本人希望で現金を所持されている。原則は預かり金として管理し、喫茶や買い物の機会に支払って頂いている。出納帳を月ごとに家族へ報告している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持たれている方はいるが自身で管理が出来にくい為支援を行っている。手紙を書かれる方には、一緒に切手を買に行ったり、便せんを買に行ったりお手伝いしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節に合わせた、レイアウトを行い、利用者が、喜ばれる事も多い。2か月に一回程度、華道クラブがあり、好きな方はお花を活けられ、ホールに飾られたり、自室に飾られたりしている。利用者と季節の飾り物を作り、作品はホールに季節感を楽しめるようにしている。	食堂には、台形の形のテーブルが組み合わされ、仲の良い方たちと食事ができるよう工夫されている。広いオープンキッチンでは利用者と一緒に食事の準備が行われ、掃き出し窓からは、広いウッドデッキにつながり、季節の花が植えられている。その先には手入れの行き届いた畑や庭が広がり、日光浴を楽しめるとうかがった。居間にはマガジンラックに雑誌や新聞が多く収納され、いつでも読めるようにされている。テレビを囲むようにソファがたくさん置かれ、ゆったりと過ごせるスペースが確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台形のテーブルを設置し、行事などその時の状況に合わせて形を変えは位置している。ソファをところどころに置き、利用者が安心してくつろげるよう、状況に合わせて、配置している。自分の座る位置が自然に決まってきたり、気の合った利用者で過ごされている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、クローゼットは備え付けのものがあるが、使い慣れたもの、希望のものを配置されている。仏壇や、写真を飾られている方も多し。また、作った作品、色塗りのカレンダー、好きなタレントの写真など部屋いっぱい飾られている方もおられ、本人が居心地よく過ごせるよう希望に添い援助している。	冷蔵庫、タンス、椅子、三面鏡、テレビなど、以前に使っておられたものが持ち込まれている。若いころの写真や、家族の写真、好きなタレントの写真などを飾られ、書道作品、工作物など一人ひとりの好みに合った居室づくりがなされている。湿温度計を設置し数値を管理されている。また事業所から部屋ごとに加湿器を置くなど居心地よく過ごせる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット間は行き来できるため、隣までと行き来される方もある。「トイレを借りに来た。」とトイレを使われる方を見られている。随所に手摺りを設け、スタッフ同士が声を掛け合い見守りを行っている。		